

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>

院長退任のご挨拶

名誉院長 大友 敏行

社会保険時代に続く年金・健康保険福祉施設整理機構(RFO)の最終年に当たる、平成25年4月から院長を務めさせていただき早7年が過ぎました。慣れない独立行政法人としての規定を遵守しつつ、定年まで職務を全うできましたのも、当院職員は基より近隣の医療関係者の皆様、住民の方々のご理解とご協力があった賜物と感謝しています。これからもJCHOが推進する地域包括ケアの旗印の下、病院とその関連施設が新しい指導者と共にさらに前進し発展することを願っています。



院長就任のご挨拶

病院長 松本 圭吾

この4月1日付けで院長に就任させていただきます松本です。当院は1986年に中央区(当時は生田区)中山手から北区惣山町にスケールアップして新築移転してまいりました。当時、私は京都で脳外科専攻を決めた卒業間近の医大生でしたが、学内の噂として神戸で新築移転のすごい病院が出来、脳外科開設に伴い助教授が赴任すると聞いてどんな病院が夢想していたのを思い出します。その後間もなく、脳外科の医師になり、何度か外来や手術の手伝いなどで当院に来る機会がありましたが、想像通りの“ピッカピカ”の病院でした。その十数年後の2001年に縁あり当院に赴任することになりました。病院は急性期医療全般に加えて健康管理センター、介護老人保健施設などを備えた地域の総合医療センターとして変わらず機能していましたが、一方で臨床研修制度の改変や専門医の診療・教育体制の変革による医師の供給体制の激変により、当院も例にもれず縮小・閉鎖に追い込まれた診療科や部門がありました。人口構造の変化に伴う医療体制の変革が求められている現在、6年前に移管された地域医療機能推進機構(JCHO)の理念である「地域包括ケアの推進」とともに、すでに認定されている「地域医療支援病院」としての役割を果たすことが肝要かと考えています。地域医療支援病院として求められる4つの役割、1. 救急医療の提供 2. 紹介患者に対する医療の提供 3. 医療機器の共同利用の実施 4. 地域の医療従事者に対する研修の実施 はどれも順守すべき重要な事項です。とくに**救急医療と紹介患者に対する医療の提供**は当院のとるべき基本的なスタンスと考えています。いまだ新型コロナ感染の収束が見えないなか、スタッフを含め医療資源が不足している部門もありますが、地域医療の要としての役割を果たすべく全力を尽くして努力してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

おかだ内科クリニック

〒651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町1丁目7-3 (法務局西隣)

TEL 078-596-5962

診療科目: 内科・循環器内科

診療時間:

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日・祝 |
|------------------------|---|---|---|---|---|---|-----|
| 9:30~12:30(受付 9:20~) | ● | ● | ● | × | ● | ● | × |
| 17:00~20:00(受付 16:50~) | ● | × | ● | × | ● | × | × |



岡田 雅邦先生



2013年に、それまでお世話になった旧社会保険神戸中央病院を辞し、惣山町で診療させていただいています。専門は高血圧診療ですが、18年間神戸中央病院で経験させていただいた内科全般に関する診療や約10年間の緩和ケア病棟での診療経験などが、一般内科医として現在のクリニックでの診療に役立っています。

神戸中央病院のそばで開業していることもあり、当院にご通院いただいている患者さんも何かあった時には神戸中央病院でお世話になりたいとご希望されることも多く、緊急受診や緊急入院などご無理をお願いすることも少なくありませんが、いつも快く受け入れて下さっています。また、消化

器系検査やCT、MRIなどの画像診断などの依頼にもいつも迅速にご対応いただいております。神戸中央病院の先生方、地域医療連携室の方々、医療スタッフの皆様方には大変感謝いたしております。

元気で過ごしの方々への健康維持のお手伝いだけでなく、心不全や脳卒中などにより生活レベルの低下を来した患者さんにも少しでも良い状態で過ごしていただけるよう、日々の診療を行ってまいりたいと考えています。これからもご指導の程、宜しく申し上げます。

研修医(1年次)



はやし 林
しんや 真也

徳島大学からきました。林 真也と申します。大学ではサッカーにずっと取り組んでいました。皆様のお役に立てるように努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



むかい 向井
じゅん 潤

4月より研修医として働かせて頂きます。患者さんの生活がより良くなるように努めます。よろしくお願いいたします。



ゆとく 湯徳
ゆうき 祐樹

まだ左右もわからず、緊張もしていますが、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



まえだ 前田
ふゆき 冬樹

姫路市出身、兵庫医科大学卒業です。一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。



やまね なつの
山根菜都乃

4月から研修医としてお世話になります山根です。福井大学出身です。地元は兵庫県播磨町です。精一杯学ばせて頂きたいと思うので宜しくお願いいたします。



あだち しおん
足立 紫音

この春に京都府立医科大学を卒業しました。実家は愛知ですが、生まれ育った兵庫で働くことができ、とても嬉しいです。精一杯働きますので、よろしくお願いいたします。




きたに けいすけ
木谷 圭祐

中高生の時になれ親しんだ神戸市で研修ができることをうれしく思います。1年間という短い間ですが、よろしくお願いいたします。


第17回市民医療セミナー、第9回在宅医療・介護セミナー中止のお知らせ

ご案内しておりました、令和2年6月6日(土)の市民医療セミナー、在宅医療・介護セミナーは新型コロナウイルス感染症防止対策の一環として中止と致しました。参加希望の皆様方にはご迷惑をおかけしますが、あらかじめご了承下さい。


新任医師紹介




たに谷 直樹：外科
4月より赴任してまいりました。神戸市北区の住民の皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。




かめざき 通嗣：腎臓内科
4月より赴任致しました。腎炎(尿検査異常)から透析まで幅広く対応させて頂きたいと思っております。地域の皆様のお役に立てるよう頑張りますので宜しくお願い致します。




つばた 英雄：循環器内科(肺高血圧症)
4月より京都府立医科大学より異動となりました。循環器内科一般、肺高血圧症などお困りの症例がありましたら、気軽に御紹介下さい。よろしくお願い致します。




せいけ 尚彦：脳神経内科
4月よりお世話になります。地域医療に少しでも貢献できるよう精進して参ります。どうか宜しくお願い致します。




おの 慶：内科(緩和ケア)
4月より赴任致しました。地域の皆様のお役に立てるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。




やすみず 良知：病理部(病理診断科)
北海道大学の出身です。研究生活が長かったこともあり、研究的探究心を持って臨むことを心掛けています。




ひさおか 聡史：脳神経外科
はじめまして。脳神経外科の久岡です。少しでも地域の皆様に貢献できるよう精進致しますので宜しくお願い致します。



やまもと さとみ：腎臓内科
4月より腎臓内科で勤務させて頂きます。地域の皆さまのお役に立てるように頑張ります。宜しくお願いいたします。



いとう 愛：内科(血液内科)
4月より血液内科で勤務させて頂けます。一日でも早く皆様に貢献できるよう精一杯がんばります。



ふるかわ たつや：眼科
地域の皆様に早くなじめるように丁寧な診察をしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。



退任医師のお知らせ

| | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 腎臓内科：中村 格 | 循環器内科：大友 敏行 | 脳神経内科：山形 大志 |
| 呼吸器内科：中邨 亮太 | 循環器内科：田谷 俊彦 | 外科：曾我 耕次 |
| 総合内科：日下 聡 | 消化器内科：古志谷達也 | 脳神経外科：中田 章弘 |
| 総合内科：野崎 高史 | 消化器内科：安田 知代 | 眼科：柏木 孝夫 |
| 研修医：井出 文枝 | 真鍋 修司 | 片木真一郎 |
| 木村 洋輝 | 山本 慎太 | 山本 学 |
| | | 奥 雄太郎 |

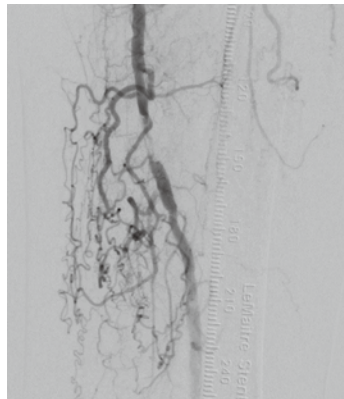


《医療機関向け》

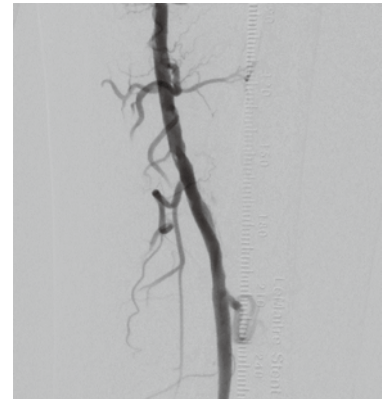
下肢動脈疾患に対する最新の血管内治療と 当院フットケアチームの発足について

超高齢化社会に突入したわが国では動脈硬化性疾患の増加が問題となっており、末梢血管疾患（Peripheral Artery Disease: PAD）の有病率は65歳以上で3～6%とされています。PADは従来の下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）を含む、より広い疾患概念です。冠動脈疾患の治療（PCI）は標準化が進み成熟しつつありますが、PADに対する血管内治療（Endovascular Treatment: EVT）は、PCIのあとを追いつつも独自性を持って今まさに日進月歩の状態です。浅大腿動脈の病変に対しては、2018年より治療後の再狭窄減少効果のある薬剤被覆バルーンが、2019年からは薬剤溶出性ステントが臨床使用できるようになり、従来の金属ステント留置の機会は激減しています。また、これまで下肢動脈の治療は原則として経大腿動脈アプローチでしたが、2019年より経橈骨アプローチで腸骨動脈を治療できるデバイスシステム（Radial to Peripheral: R2P）が登場し、より低侵襲な治療方法も選択できるようになっています。今後は動脈硬化性病変（プラーク）そのものを切削するデバルキングデバイスの登場も予定されており、さらなるEVTの成績改善が期待されます。

PADの中でも重症下肢虚血（Critical Limb Ischemia: CLI）は極めて重篤な病態で、下肢の血流不全から潰瘍や壊疽を形成し、切断が必要となることや、感染症などを合併して致命的な転帰をたどることもあります。比較的最近の報告でもCLI患者の5年生存率は30～60%程度と、進行悪性腫瘍の予後に匹敵するとされています。PAD・CLIの症状や併存疾患の多様性から、携わる診療科は循環器内科以外にも皮膚科、整形外科、形成外科、糖尿病内科、透析内科など多岐にわたりますが、これまで当院では各科横断的・集学的に診療できる体制が整っていませんでした。そのため昨年9月より各診療科医師に加え看護師、理学療法士、義肢装具士、事務員からなる『フットケアチーム』を結成し、患者のステージに合わせた治療の標準化、安全なリハビリのための装具の作成、カンファレンスでの難治症例の共有などを通して診療のクオリティの向上を目指しています。今年3月からは、従来のフットケア看護専門外来を拡大し、医師も参加して糖尿病患者のみならずPAD・CLI患者の一次予防・二次予防を協力しておこなっています。我々の取り組みが、患肢の救済そして患者生命予後改善につながれば望外の喜びです。



治療前



薬剤被覆バルーンによる治療後

●ABI(Ankle Brachial Index)検査について

非侵襲的かつ簡便にPADを早期発見できる検査としてABIがあります。次の項目に一つでも該当する方にABI検査の検討をお願い致します。ABI \leq 0.9でPADの存在が疑われます。

- 65歳以上の高齢者
- 間欠性跛行が疑われる患者
- 心疾患の既往歴/疑いのある患者
- 糖尿病患者
- 下肢疼痛、冷感のある患者
- 脳血管疾患の既往歴/疑いのある患者
- 透析患者